

『次世代のコミュニティづくり、文化づくりに向けて、 横浜スマートコミュニティとJIFASが、今後の協力体制を合意』

さる2011年8月30日、JIFASメンバーの谷口雄二郎(JIFAS事務局長)、宮崎均(筑波大学院教授)、田中純(JTM田中事務所代表、(独)産業技術総合研究所/招聘研究員)の3名が、「横浜スマートコミュニティ」の代表を務める有馬仁志氏を表敬訪問し、活発な意見交換を行い、今後の協力体制について合意を得ました。

横浜市が支援する「横浜スマートコミュニティ」(以下、横浜SC)は、従来型のコンソーシアムや都市開発などのプロジェクトとは異なり、「人が住みたくなる、生き生きとした生態系としてのコミュニティづくり」をコンセプトに据えた取り組みで、各方面から注目を集めています。

その代表を務める有馬仁志氏は、世界的な高度産業機器の開発支援技術で知られるdSPACE社(本社ドイツ)の日本法人社長を務める技術者出身の経営者です。また、同様のコンセプトをもって、「福岡スマートハウス・コンソーシアム」を成功に導いた実績を持っている方としても広く知られています。

ここで、なぜ、今回の合意に至ったかについて、その経緯を述べておきましょう。

横浜SCとJIFASの組み合わせは、一見してこれまでに存在しないものです。なぜ、横浜SCのような機関とJIFASが交流を持とうとしているのか、疑問を抱かれる向きもあるかもしれません。

これまで活動してきた領域だけを見ると、確かに両者は、まったく畑違いの団体です。実際の技術や活動においてもかなりの隔りがあるように見えます。しかし、実は、それはきわめて表層的な見方であって、両者の間には、その根底にある姿勢、すなわち、人が生き生きと暮らせる社会や新しい文化を創造するためには、「異業種の融合による新しい価値や技術の創出が不可欠」という点、さらにはそれを力強く実践している、という点においては見事なほどの一致があるのです。

(最終ページへ続く)



※今後の取り組みについて熱心に議論を行った両団体のメンバー。
写真左から、横浜SC代表の有馬仁志さん、ジェイ・ティー・マネジメント田中事務所代表の田中純、筑波大学院教授の宮崎均さん、JIFAS事務局長の谷口雄二郎さん。(2011年8月30日)